

日本保健医療社会学会ニュースレター (No.98) 2015/08/14

目次

1. 学会長就任のご挨拶
 2. 第41大会報告
 3. 第42回大会告知
 4. 総会報告
 5. 園田賞報告
 6. 今期理事、監事、評議員の紹介
 7. 理事会報告
 8. 渉外・国際交流活動報告
 9. 編集後記
-

1. 学会長就任のご挨拶

蘭 由岐子（追手門学院大学社会学部）

本年5月の首都大学東京での総会で、会長に推挙・承認され、2015～2016年度の会長に就任いたしました蘭（あららぎ）由岐子（追手門学院大学社会学部）です。今期2年間、下記の陣容で理事会および学会運営に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

総務	清水 準一	（首都大学東京大学院人間健康科学研究科）
学会誌編集	樺田 美雄	（神戸市看護大学看護学部）
学会誌編集	石川 ひろの	（東京大学大学院医学研究科）
研究活動	西村 ユミ	（首都大学東京大学院人間健康科学研究科）
研究活動	中山 和弘	（聖路加国際大学看護学部）
研究活動	田代 志門	（国立がん研究センター研究支援センター生命倫理室）
研究活動	進藤 雄三	（大阪市立大学大学院文学研究科）
研究活動	伊藤 美樹子	（大阪大学大学院医学系研究科）
渉外・国際	細田 満和子	（星槎大学共生科学部）

本学会は、2011年度より（株）国際文献社に学会事務局および編集委員会事務局の業務を委託し、学会理事会・事務局体制の強化が進められてきました。この業務委託体制も3期目となり、安定期に入ったといえましょう。とりわけ、会費値上げ後の学会会計の健全化については、繰越金が約400万円となり、一応の回復を見たと思われます。以前は委員会開催時の交通費の全額支払いも困難でしたので、本当に安堵しているところです。今後は、園田基金も含め、有效地に支出し、その結果を受けた会員増による学会会計安定化を目指したいと思います。また、上記理事一覧をごらんになってお気づきかと思いますが、前期理事会の提案を引き継ぎ、ニュースレターや学会ホームページの管理を総務担当にうつして広報担当の理事をなくし、研究活動担当理事をひとり増やすという、理事会構成といたしました。この結果、大会のよりスマートな開催・運営および研究活動の充実化が期待できるものと思います。なお、研究活動担当の具体的な運営については、渉外・国際交流委員会のそれと併せて、今期理事会にて検討していく予定です。さらに、学会の前身の研究会が設立されて40年を過ぎ、学会設立後でも二十数年

を数えています。前期理事会でニュースレターのアーカイブ化が着手されたように、保健医療の社会学的研究の歩みをリフレクシブに振り返る作業を引き続き行なっていきたいと思います。これら理事会の運営につきまして、ぜひとも会員みなさまのご理解ご協力をお願いいたします。

いうまでもなく、学会の基本は、会員各自の研究活動にあり、それによって保健医療社会学研究の「知」の充実と展開をはかることがあります。理事会や大会校の企画が会員のそのような研究活動におおいに資することを期して、今期の取り組みを開始しています。

2. 第41回日本保健医療社会学会大会報告

第41回副大会長 清水準一（首都大学東京大学院人間健康科学研究科）

第41回大会は2015年5月16・17日に首都大学東京 荒川キャンパスで開催した。2日間に231名の参加により例年にも増して盛会のうちに無事終了することができた。三井さよ大会長の御事情により3月から学会事務局を引き受けるなど、イレギュラーな運営体制となつたが、大会のシンポジスト・コメンテーターを初め、司会などを含め会員の多大なるご助力に改めて感謝したい。

大会テーマは「生活モデルへの転換」とし、三井大会長と企画委員のメンバーによりシンポジウム、教育講演の企画、人選が行われ、1日目のシンポジウムは「この20年で医療はどう変化したか?——生活モデル／セルフケア／自己決定」と題し、猪飼周平先生（一橋大学）・松繁卓哉先生（国立保健医療科学院）・田代志門先生（国立がん研究センター）から重要な問題提起がなされた後に、美馬達哉先生（京都大学）・戸ヶ里泰典先生（放送大学）からの的確なコメントを踏まえてフロアとも充実した議論が行われた。



また教育講演は大森健先生（IMI）から「人工呼吸器から見える医療／家庭／社会」と題して、在宅での人工呼吸器使用の現状や、そこにかかわる療養者と家族の状況、関連する医療・福祉制度の課題を整理しながら説明していただいた。人工呼吸を装着するという意思決定が極めて重層的に問題が絡まりながら行われることが伝わる内容であった。

RTDは4演題、一般演題は33演題とやや少なくはありましたが、こちらもフロアからの活発な意見交換がみられた。司会を担当した先生方には深く感謝申し上げる。

なお1日の夜に開催した懇親会は会場に近接した学内の食堂で開催したこともあり、白熱したシンポジウムの余韻を引きずるように60余名の多くの参加者があり、例年以上に賑やかな会となった。

今大会では、編集委員会主催の会員向けのプレセミナーの開催や、会場のバリアフリー化や参加者向けに無線LANの利用など、いくつかの新たな試みも行った。また大会校の負担軽減として学会の研究活動担当理事の皆様に抄録集の作成や一般演題セッションの準備などに多大なるご助力をいただいたことに感謝の意を表したい。

最後に、大会の企画・運営に尽力した三井さよ大会長、企画委員・運営委員の皆様（今回よ



り「論集」特別号の巻末に名前を挙げさせていただいた）、当日の運営に協力してくれた首都大学東京および東京医療保健大学の学生の皆様に心より感謝を申し上げたい。

3. 第42回日本保健医療社会学会大会告知

第42回大会長 蘭由岐子（追手門学院大学社会学部）

2016年5月14-15日に第42回大会を大阪府茨木市の追手門学院大学にて開催いたします。本学は、京都と大阪の間のいわゆる「北摂」の地にあり、最寄り駅は、JR 茨木駅、阪急茨木市駅となります。JR 茨木駅は、JR 新大阪駅より快速でひと駅、10分足らずのところにあり、遠隔地からのアクセスも便利です。ただ、キャンパスは茨木市の郊外にありますので、最寄り駅からスクールバスや阪急バスで20~30分かかり、多少のご不便をおかけすることになるかと存じます。他方、200台以上が収容できる駐車場がありますので、自家用車での御来校を歓迎いたします。

さて、本学には、保健医療社会学会の会員が私ひとりをおいてほかにおられませんので、大会企画・運営にあたっては、研究活動担当理事および近隣の会員のみなさまのご協力が必須となります。サポート方、どうぞよろしくお願ひいたします。具体的なテーマやシンポジウムの内容につきましては、しばらくお待ちいただければさいわいです。まずは、来年度の予定表に具体的日程をお書き添えいただきますようお願い申し上げます。

4. 総会報告

総会報告の詳細は、大部になりますので、末尾への別添とします。

(清水理事：総務)

5. 園田賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に2006年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞（2011年度より「園田賞」）の2014年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下の通り決定され、受賞者には、2015年度の学会大会の総会終了時に授賞式が行われました。

受賞者：石田 絵美子（*神戸市看護大学）

受賞作：原著「筋ジストロフィー病棟に暮らす患者たちの経験 一青年期の患者たちとスタッフの「かかわり」の経験に注目して一」（『保健医療社会学論集』第25巻1号、pp.30-40、2014年）

2014年度園田賞は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』（第25巻）に掲載された若手研究者による論文（総説、原著、研究ノート）を対象にして選考され、選考対象論文は3本（原著2本、研究ノート1本）でした。

(*総会時のご所属)

(清水理事：総務)

6. 今期理事、監事、評議員の紹介

理事については、1. 学会長就任のご挨拶において、紹介されておりますので、監事・評議員についてご案内いたします。

監事は、朝倉隆司（東京学芸大学）、山崎喜比古（日本福祉大学）の両氏にご就任いただく

ことになりました。評議員につきましては、第2回の理事会での承認事項となりますので、後日、ご報告いたします。

(蘭会長)

7. 平成27年度第1回理事会報告

日時：2015年5月16日（土） 9:30～11:30

会場：首都大学東京 荒川キャンパス 382教室

出席者：黒田会長／総務代行、朝倉理事、池田理事、小澤理事、金子理事、木下理事、清水理事※、進藤理事※、蘭理事***、伊藤理事***、田代理事***、中山理事***、西村理事***事務局 平野（記）

欠席者：林理事、三井理事、石川理事***、樫田理事***、細田理事***

※ *は、2013-14期・2015-16期理事、***は2015-16期理事を示す。

①第41回大会および総会についての確認（清水）

清水副大会長より第41回大会について、100名程の事前参加申し込みがあり、順調に準備がなされていることが報告された。

黒田会長／総務代行の提案により、総会でのフロアから司会の推薦がなかった場合の議長候補者の確認、総会議案提案者の確認がなされ、承認された。

②議事録、次号ニュースレターの今期理事会執筆担当記事の会長／総務代行への一任について（黒田）

理事会議事録及び次号ニュースレターの発行に伴う関連記事の作成は黒田会長／総務代行に一任することに決した。

③各担当の新旧間の引継ぎについて確認（黒田）

理事会としては引き継ぎ書を新理事にメール添付文書の形で配布していることが確認された。

各担当についての新旧間の引き継ぎについて確認がなされた。

④編集委員会報告（小澤）

小澤編集委員長より、4月12日に編集委員会が開催されたこと、また、Nii終了に伴う説明会へは、現編集委員で、次期副編集委員長の石川新理事が出席したことが報告された。

⑤定例研究会の報告、企画について（関東）（木下・清水）

3月理事会後、定例研究会を開催しておらず、報告事項は特になかった。

⑥定例研究会の報告、企画について（関西）（進藤・林）

3月理事会後、定例研究会を開催しておらず、報告事項は特になかった。

⑦看護・ケア研究部会会計報告（朝倉）

担当の朝倉理事より資料に基づき2014年度会計報告がなされた。

現時点での会員数は40名であることが報告された。

⑧渉外・国際交流について（金子）

金子国際交流委員長より、学会ホームページ英語版の充実化を図ったことが報告された。

⑨入退会者の承認（黒田）

新入会3名（通常会員2名、共同発表会員1名）、退会1名（通常会員）が承認された。

⑩その他

黒田会長／総務代行より、会計監査時の監事および監査立ち会い理事の交通費がこれまで支

給されていないことが報告された。そこで、2014年度会計監査より、交通費を支給することが提案され、承認された。

また、黒田会長／総務代行より、業務委託において業務内容ごとに交わされる契約書類に違いがあることが報告され、検討事項として次期理事会に引き継ぐことに決した。

(清水理事：総務)

8. 涉外・国際交流活動報告

国際社会学会（ISA）の医療部会（RC15）会長の Amelie Quesnel-Vallee 氏より、2016年7月にウィーンで開催される国際社会学会フォーラムの抄録募集のお知らせが来ております。締め切りは9月30日ですが、詳しくはISAのホームページをご覧ください。

Call for abstracts for ISA RC15 Vienna 2016 "The Futures We Want: Global Sociology and the Struggles for a Better World." The call for abstracts is now open until September 30, 2015 and our sessions are listed at <http://www.isa-sociology.org/forum-2016/rc/rc.php?n=RC15>. The session organizers will be looking forward to receiving your abstract submissions in great numbers!

この募集に関してご質問などあれば、細田（miwhosoda_at_seisa.ac.jp）までご連絡ください。
※_at_を@に変更してください。

なお、細田はRC25（言語と社会）とRC15のジョイントセッション Language on Health and Disease でオーガナイザーをしておりますが、RC15に入会していれば、RC25に入っていないなくてもこのジョイントセッションで発表可能であること を確認しております。各RCによって規定は異なりますが、基本的にRC15では他のジョイントセッションの場合も同様の措置を要求することにしています。

この件に関しても、ご質問などあれば承りますので、どうぞご連絡ください。

それでは、多くの皆様の応募を心よりお待ち申しております。

(細田理事：涉外・国際)

9. 編集後記

・日本保健医療社会学会ニュースレターは第92号からはp d fファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局（下記）まで御連絡ください

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

(清水理事・総務)

発行：日本保健医療社会学会

編集：総務担当（清水準一）

学会事務局：

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunkens.co.jp

03(5389)0237

日本保健医療社会学会ニュースレター (No. 98) : 別添

総会報告

議長に吉田澄恵会員が選出され議事が進行され、すべての議案が承認された。以下、要点を報告する。

第1号議案: 2014年度事業報告

1. 学会事務担当前任者の不祥事について

学会長より、昨年総会後の状況について説明がなされた。

2. 学会長より:

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について報告する。

(1) 2015年度第41回大会の開催

法政大学(大会長・三井さよ理事)において開催すべく準備を進めてきたが、三井大会長の一身上の都合により、清水準一理事を副大会長とし、会場を首都大学東京荒川キャンパスに移して、5月16日、17日に開催することとなった。三井会長、清水副大会長はじめ準備と運営に当たって下さった関係者の皆様にこころより感謝申し上げる。

(2) 2014年度の財政について

前年度に引き続き、中期的に、かつ着実に、学会運営上、健全な水準の予備費(繰越金)の積み上げに至ることを目標に、収入と支出の両面にわたり、健全な財政構造の確立に努め、その結果、繰越金はもう少しのところまで積み上がった。

(3) 研究活動のさらなる活性化に向けて

2014年7月に開催された世界社会学会議横浜大会後の、本学会の国際化のあり方について国際交流委員会を中心に検討した。

(4) 大会への理事会の関与のあり方

今回大会の企画、準備、運営において、大会引受側の負担を軽減するような、大会引受側と理事会の業務分担の新たなあり方を検討し、部会編成、司会選任などを理事会の担当としたり、参加費振込口座の開設・管理、要旨集編集などを事務委託した。しかし、それに伴う支出の大幅増大は反省点。

3. 研究活動担当理事より(関東、関西、看護・ケア研究部会) :

(1) 定例会・研究部会について

定例研究会を関東2回、関西2回、看護・ケア研究部会を5回開催した(詳細は学会ホームページにて公開)。これらに対して、学会から財政的な支援がなされた。以前より検討されていた関東定例研究会と看護・ケア部会の共同開催については、今年度も日程の都合等により実施できなかつた。

(2) 園田賞(学会奨励賞)選考について

園田賞の(学術奨励賞)の選考結果が報告され、理事会にて承認された。

今年度の対象論文は、3本(原著2本、研究ノート1本)であった。

(3) 学会大会企画について

大会校の負担軽減のため 2015 年度大会においては研究活動担当理事 4 名に 1 名の理事を加えて拡大研究活動委員会を組織し、ラウンド・テーブル・ディスカッションの応募企画の承認、一般演題のセッションの割り振りと司会者の依頼等を行った。また、同様の観点からこれまで大会校が行っていた特別号(抄録集)の編集を国際文献社に委託した。

4. 学会誌編集担当理事より:

(1) 日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の開催

- 2014 年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／日時:2014 年4月 13 日(日)10:00～15:00／場所:国際文献社アカデミーセンター／審議・報告事項:2014 年3月末締切投稿論文の査読者決定、『保健医療社会学論集』第 25 卷 1 号の編集について、第 25 卷 2 号の構成、献本、書評について。
- 2014 年度第 2 回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時:2014 年 5 月 17 日(土)13:00～15:00／開催場所:東北大学医学部／審議事項・報告事項:『保健医療社会学論集』第 25 卷 1 号の編集について、第 25 卷 2 号の編集について、第 26 卷 1 号の特集について、等。
- 2014 年度第3回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時:2014 年 10 月 26 日 10:00～15:00／場所:国際文献社アカデミーセンター／審議・報告事項:2014 年9月末締切投稿論文の査読者決定、『保健医療社会学論集』第 25 卷 2 号の編集について、第 26 卷 1 号の構成、献本、書評について。

(2) 『保健医療社会学論集』の刊行

- 2014 年 7 月 『保健医療社会学論集』第 25 卷 1 号の刊行。
- 2014 年 9 月末 投稿論文締切
- 2015 年 2 月 『保健医療社会学論集』第 25 卷 2 号の刊行
- 2015 年 3 月末 投稿論文締切

(3) 公正かつ透明な査読プロセスを安定的に運用するための編集委員会体制の確立

2007-2009 年度編集委員会から確立されてきた編集委員会の権限と責任の明確化、および、機能の限定化・明示化を堅持し、今後も公正かつ透明な査読プロセスの安定的運用につとめる。

(4) 学会誌の CiNii での公開

国立情報科学研究所 (NII) に申請し、第 10 卷以降の雑誌の電子化を推進により CiNii での情報検索ができるようにした。

5. 涉外・国際担当理事より:

(1) ISA 横浜大会

ISA 横浜大会(国際社会学会第 18 回世界社会学会議、2014 年 7 月 13～19 日、パシフィコ横浜)は 104 の国・地域から 6087 名という過去最大規模の参加者を得た。日本人参加者は 986 人であり、本学会会員もさまざまな形で大会に積極的に関与した。

(2) 社会学系コンソーシアム

上記ISA横浜大会参加者に配布することを目的として、社会学系コンソーシアムが編集した『世界へのメッセージ *Messages to the World*』に、本学会は寄稿した。

(3) 国際交流

国際社会への情報発信策の一環として、本学会ウェブサイトの英語版の充実化を図った。具体的には、『保健医療社会学論集』の英文題目・執筆者リストを掲載した。また、社会学系コンソーシアムのウェブサイト上の『世界へのメッセージ *Messages to the World*』ページへリンクを貼った。

6. 広報担当理事より:

(1) ニューズレターについて

93号(2014年4月16日)、94号(7月12日)、95号(10月24日)、96号(12月23日)および97号(2015年4月30日)の5号を発刊した。その他に、定例研究や大会関連告知等につき電子メールを用いた発信を適宜おこなった。

(2) ホームページ更新の役割分担の変更

ホームページ更新については、2014年度総会までに総務担当に移行した。

(3) ニューズレターバックナンバーのアーカイブ化について

2015年度ニューズレターバックナンバーのpdfアーカイブ化をおこなった。

7. 総務担当理事より:

(1) 2014年度の学会事務局体制

学会事務担当者の年度開始直前の交代により、一から連絡・分担体制を再構築していった。

(2) 学会財政の安定確立に向けて

昨年度総会の事業計画では「増収策の検討と支出の抑制に努め、財政構造の安定化を進める。」

としたが、総務担当として通常の業務のほかに、特別に報告すべき事業は行わなかった。

(3) 会員情報の整備

昨年度総会の事業計画では「会員の理解と協力を得ながら、引き続き、整備を進める。」としたが、

総務担当として通常の業務のほかに、特別に報告すべき事業は行わなかった。

(4) 新会員の確保

事業計画では「新たな会員を確保するため近年の動向の分析と方策を具体的に検討する。」としたが、総務担当として通常の業務のほかに、特別に報告すべき事業は行わなかった。

(5) 東日本大震災被災者に対する会費減免措置を2014年度も継続したが、免除申請者はなかった。

(6) 大会開催校の負担軽減のための具体策を検討し、実行した。

(7) ホームページ更新

各担当理事と連携しつつ、内容の充実を図った。ただし、更新回数、ページ増設が多く、大幅な予算超過となったことは反省点。

第2号議案:2014年度決算・監査報告

日本保健医療社会学会2014年度決算書
2014年4月1日から2015年3月31日まで

一般会計				(単位:円)		
科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額
収入の部				支出の部		
会費収入	4,914,000	5,832,000	-918,000	印刷製本費支出	1,300,000	1,009,842
学会誌刊行物売上	157,000	155,868	1,132	郵便費支出	240,000	191,210
広告収入(特別号)	37,500	22,500	15,000	交通費支出	530,000	491,208
受取利息	700	116	584	学会業務委託費支出	1,992,200	2,334,598
雑収益	5,000	68,929	-63,929	【発送関連業務費支出】	120,000	88,979
				【事務局関連業務費支出】	1,100,000	1,224,702
				【編集関連業務費支出】	430,000	512,195
				【HP関連メンテナンス支出】	275,400	432,000
				【その他(資料保管代)】	56,800	76,722
				選舉関係費支出	200,000	286,363
				消耗品費支出	100,000	64,800
				会議費支出	20,000	30,760
				大会・研究会・部会補助費支出	380,000	328,566
				社会学系コンソーシアム年会費支出	20,000	51,434
				その他支出	5,000	0
				予備費支出	9,792	-4,792
					3,053,073	0
当期収入合計	5,114,200	6,079,413	-965,213	当期支出合計	7,840,273	4,767,139
前期繰越額	2,726,073	2,726,073	0		0	3,073,134
収入合計	7,840,273	8,805,486	-965,213	次期繰越額	0	4,038,347
				支出合計	7,840,273	8,805,486
						-965,213

団体基金				(単位:円)		
科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額
収入の部				支出の部		
				奨励賞金	50,000	50,000
				交通費支出	70,000	0
				消耗品費支出	10,000	367
				業務委託費支出	21,600	21,600
				雑費支出	1,000	864
				予備費支出	2,928,287	0
当期収入合計	0	0	0	当期支出合計	3,080,887	72,831
前期繰越額	3,080,887	3,080,887	0		0	3,008,056
収入合計	3,080,887	3,080,887	0	次期繰越額	0	3,008,056
				支出合計	3,080,887	3,080,887
						0

日本保健医療社会学会2014年度会計についての監査の結果、適正なものと認めます。

2015年5月2日 会計監査

山崎喜比古印

2015年5月2日 会計監査

蘭由岐子印

貸借対照表

2015年3月31日現在

日本保健医療社会学会

一般会計

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
普通預金	1,232,820	未払費用	528,727
郵便貯金	1,232,820	前受会費	244,000
郵便振替	3,578,254	預り金	0
流動資産合計	4,811,074	流動負債合計	772,727
2. 固定資産		2. 固定負債	
固定資産合計	0	固定負債合計	0
		負債合計	772,727
III 正味財産の部			
正味財産合計			4,038,347
資産合計	4,811,074	負債及び正味財産合計	4,811,074

貸借対照表

2015年3月31日現在

日本保健医療社会学会

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
普通預金	3,008,056	未払費用	0
郵便貯金	3,008,056	流動負債合計	0
流動資産合計	3,008,056	2. 固定負債	
2. 固定資産		固定負債合計	0
固定資産合計	0	負債合計	0
資産合計	3,008,056	負債及び正味財産合計	3,008,056

第3号議案:2015年度事業計画

1. 学会長より:

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について提案する。

(1) 第42回大会の開催

2016年度第42回大会を、大会長を蘭由岐子会員(追手門学院大学)として開催する。そのための準備と支援を行う。

(2) 2015年度の予算について

引き続き、中期的に、かつ着実に、学会運営上、健全な水準の予備費(繰越金)の積み上げに至ることを目標に、収入と支出の両面にわたり、健全な財政構造の確立に努める。

(3) 大会への理事会の関与のあり方

昨年度に引き続き、大会引受側の負担を軽減する方策を講じるが、そのための支出については、過大な支出とならないように努める。

- (4) 学会運営上、健全な水準の予備費(繰越金)が積み上がった後の、予備費積み上げのための会費値上げ分の使途についてこれを検討する。あわせて、園田基金の、園田賞以外の使途についても検討する。
- (5) 2013-14 理事会から始まった、過去のニュースアーカイブ化事業を引き継ぎ、その完成を目指す。

2. 研究活動担当理事より（関東、関西、看護・ケア研究部会）：

- (1) 定例会・研究部会について

2014 年度までと同じ方向での事業の継承・発展をはかる。関東定例研究会と看護・ケア部会との共同開催を行う予定である。

- (2) 園田賞(学会奨励賞)選考について

学会奨励賞選考に関する内規を引き継ぐとともに検討する。選考委員の選出や奨励賞の選定は、従来通り理事会が行う。

- (3) 学会大会企画について

大会校の負担軽減のため 2015 年度大会で導入したプログラム策定のための拡大研究活動委員会方式と特別号の編集委託を点検し充実を図る。また、その他の学会大会企画及び特に研究活動に関わる運営上必要な事項について、大会事務局と連携・協力して実施する。

3. 学会誌編集担当理事より：

- (1) 日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の開催

- ・ 2015 年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／日時:2015 年4 月 12 日(日)10:00 ～15:00／場所:国際文献社アカデミーセンター／審議・報告事項:2015 年3 月末締切投稿論文の査読者決定、『保健医療社会学論集』第 26 卷 1 号の編集について、第 26 卷 2 号の構成、献本、書評について。
- ・ 2015 年度第 2 回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時:2015 年 5 月 16 日(土)15:15～17:45／開催場所:首都大学荒川キャンパス／審議事項・報告事項:『保健医療社会学論集』第26卷1号の編集について、第 26 卷 2 号の編集について、第 27 卷 1 号の特集について、等。
- ・ 2015 年度第3回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時:未定

- (2) 『保健医療社会学論集』の刊行

- ・ 2015 年 7 月 『保健医療社会学論集』第 26 卷 1 号の刊行。
- ・ 2015 年 9 月末 投稿論文締切
- ・ 2016 年 2 月 『保健医療社会学論集』第 26 卷 2 号の刊行
- ・ 2016 年 3 月末 投稿論文締切

- (3) 公正かつ透明な査読プロセスを安定的に運用するための編集委員会体制の確立

2007-2009 年度編集委員会から確立されてきた編集委員会の権限と責任の明確化、および、機能の限定化・明示化を堅持し、今後も公正かつ透明な査読プロセスの安定的運用につとめる。

(4) 国立情報科学研究所(Nii)の無料電子化事業の終了対策の検討

2016 年度からの JST-Lite の運用に向けて、円滑な移行を進める。電子化に必要な予算と手続きを検討する。

4. 渉外・国際担当理事より:

(1) 社会学系コンソーシアム

社会学系コンソーシアムが行う諸事業に協力する。

(2) 国際交流

世界の保健医療社会学者との交流の方策や国際社会への情報発信の仕方を検討する。

(3) その他

国際交流委員会の学会内での位置づけや国内広報の仕方を検討する。

5. 総務担当理事より:

(1) 東日本大震災被災者に対する会費減免措置を、総会において次年度から中止することを決議するまでは継続する。

(2) ニューズレターの発行及び会員へのメールでの情報発信

ニュースレターを年3回程度発行する。その記事構成、内容についても検討を行う。また、定例研究会や大会関連告知など、時機を得た情報発信をするため電子メールを用いた発信も適宜行なう。

(3) ホームページ更新

各担当理事と連携しつつ、必要な更新を欠かさず、内容の充実を図るが、更新回数を減らしたり、できる限りページ増設を控えるなど、予算超過とならない工夫もする。

第4号議案: 名誉会員制度規約の改正

本学会に多大な貢献をした会員に対する名誉会員制度について、名誉会員に推举できる要件を下記の通り変更した。その他、微細な文言の修正を行った。

・理事・監事の職歴: 現行 15 年以上 → 10 年以上

・年齢: 現行 75 歳以上 → 70 歳以上

新しい名誉会員規約については、学会ホームページにてご確認ください。

第5号議案:2015年度予算

日本保健医療社会学会2015年度予算書(案)
自2015年4月1日 至2016年3月31日

一般会計

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	4,038,347	印刷製本費	1,300,000
会費収入	5,464,000	郵送費	173,000
学会誌刊行物売上	36,000	交通費	710,000
広告収入(特別号)	30,000	学会業務委託費	2,843,600
受取利息	200	発送関連業務	65,000
雑収入	5,000	事務局関連業務	1,259,000
		編集関連業務	650,000
		大会関連業務	719,000
		HP関連メンテナンス	75,600
		その他(資料保管代)	75,000
		選挙関係費	0
		消耗品費	65,000
		会議費	40,000
		大会・研究会・部会活動補助費	380,000
		社会学系コンソーシアム年会費	20,000
		その他 (振り込み手数料等)	10,000
		予備費	4,031,947
合計	9,573,547	合計	9,573,547

日本保健医療社会学会2015年度予算書(園田基金)
自2015年4月1日 至2016年3月31日

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	3,008,056	奨励賞賞金	50,000
		交通費	70,000
		消耗品費	10,000
		業務委託費	21,600
		雑費	1,000
		予備費	2,855,456
合計	3,008,056	合計	3,008,056

第6号議案:名誉会員の推挙

規約第3条(名誉会員選考手続き)に基づき、理事会は渋谷優子氏を推挙する。

第7号議案:次期会長の推挙

規約第11条第4項「会長は理事会の議を経て、総会において推挙する。」に基づき、蘭由岐子氏(追手門学院大学社会学部)を推挙する。